

## 第10回産業競争力会議後の甘利大臣ぶら下がり要旨

○日時：平成25年5月29日（水） 09：30～09：40

○場所：官邸3階エントランスホール

### 1 冒頭発言

ただ今、第10回産業競争力会議が終了いたしました。本日はこれまでの議論を踏まえまして、私から成長戦略の基本的な考え方をお示しいたしまして、詳細は配布資料をご覧くださいと思います。その後に、民間議員の方々からご意見をいただきました。次回はそれを踏まえて素案を示したいと思っております。

民間議員の皆様からの主なご意見をご紹介します。

- ・財政規律との関係を明確にすべきである、と複数の民間議員からご指摘がありました。
- ・実行のスピード感を強調することが重要であるということでもあります。アベノミクスはいくつかの特徴を持っていますが、そのひとつにスピード感があるということはご承知のとおりです。
- ・KPIと工程表を一体として示すべきであるというご意見。
- ・成長戦略の実現のために、産業界の積極的取組が不可欠である。民間が主役、政府はその環境整備に努める、という役回りである。
- ・内需の拡大に重点を置くべき。大胆な金融政策で円安が進んでいますけれども、各国がこれを認めているのは、日本が再び経済を立て直し、デフレを克服して経済を立て直して、世界経済の牽引役となるということで、この円安が許容されている。とすればまず内需から立て直すべきであると、それが説得力を持つというご指摘でありました。
- ・全体のプライオリティ付けが重要である
- ・成長戦略の実現に向け、企業、国民ともに傍観者になるのはやめて、主体的な当事者として、行動することを呼びかけるべき。「まず隗より始めよ」と。これは民間議員からのご指摘ですが、何かを成そうとすると必ず踏み込みが足りないとか、踏み込めば踏み込んだらで何が駄目だというような批判がよくある。マスコミも含めてという話でありました。日本全体が当事者になって前向きに取り組んでいる、傍観者になってはいけない、というご指摘でありました。
- ・十分議論ができなかった問題について、継続的に取り組む姿勢を示すべきである。

等々が今日出たものであります。私からは以上です。

### 2. 質疑応答

(問) 山登りに例えると、今日からとりまとめの議論に入ったということですがけれども、何合目まで来ているという認識でいらっしゃるのでしょうか。

(答) 8合目あたりまで来ました。しかし、登山というのは、何分のいくつまでというよりも、登れば登るほど、次の1合というのは、かつての2合、3合に匹敵するという事ですから、これから先をしっかりととりまとめていきたいと思います。まだ、深堀をする、各省調整をするという点も残っていますので、そこを精力的にやりたいと思います。

(問) まだ詰めるべき論点というのは、具体的にはどういったところが残されているのでしょうか。

(答) みなさんをご指摘されているところです。インターネット、ネット利用の件とか、医療の点とか、農業の点とか、マスコミのみなさんに指摘されていることだと思います。

(問) わかりやすく示すという話がありましたが、とりまとめに向けて、わかりやすく国民に示すための工夫というのはどういうふうな形でやろうと考えられているのでしょうか。

(答) 何を指すのか、ということです。政策分野ごとに、何を着地点として、目的地として目指していくのかということと、そこに到達するまでにどういう道筋で到達していくのかということ、そして達成度のチェックをどうやって行っていくのか、何年先にここまで到達するようにするとか、その手法はこうですとか、その達成度合いをチェックするために KPI というものを施策分野ごとに決めます。KPI というのは、具体的な達成度指標であります。例えば、大学を世界的に競争力のある大学にしていくということを目指します。そうしますと、達成度指標というのは、何年以内に世界大学ランキング 100 校の中に、日本の大学を例えば 10 校入れるとかですね、現状では 2 校だと思いますが、その目標を立てて、年限ごとにどこまで来たか、それが道筋どおり達成されてないとしたら原因は何か、追加的な措置は何が必要か、それをすればここまでいくのか、そういう検証をその道筋のなかでしっかりととっていくことによって具体的な進捗が国民と共有できると思っています。具体的な道筋を提示することと、それからそれを期限内にやっていくこと、スピード感ですね、決断とスピードであります。

(問) 農業の規制緩和や解雇ルールの話など、参院選前でもう少し踏み込んでほしかったという民間議員の方もいらっしゃいましたが、これについてはどのようにお考えですか。

(答) これで終わりということではなくて、継続的に議論していく分野もあります。農業にしても、農水大臣から中間管理機構ということが提案されました。具体的に、休耕地を借りるなり買うなりして集めて、農地にして、それを整備して、そして、貸与あ

るいは譲渡するという手法であります。これをしっかりと制度設計を詰めていきたいと思っております。まだ農水大臣に対して宿題といいますか、回答を持ってきてくれるよう要望もしておりますから、それらをどこまでまとめて最終的な成長戦略の発表時に盛り込んでいくか、楽しみにしていただきたいと思っております。

(問) ハローワークの求人情報は、2014年度に民間に一部オンラインで解放するというような報道があったのですが、今日はそのような話について方向性が示されたのでしょうか。

(答) ハローワークで、官が持っている情報を民と共有するということについては、大きなテーマの一つであります。この要請は私からも厚労大臣にしておりまして、しかるべき回答が返ってくると承知いたしております。

以 上